

毎日 2009. 3. 13 (金)

(第3種郵便物認可)

国際フォーラムから

# 福祉「第3の道」へ

## 「施す」される「の関係を超え

あるべき福祉の姿とは何かを考えさせられる機会があった。京都市北区の立命館大学でこのほど開かれた「ライフデザインと福祉（ウェル・ビーイング）の人類学」と題する国際研究フォーラム（国立民族学博物館など主催、毎日新聞社など後援）。福祉を「施す側」と「施される側」に二分するのではない、「第3の道」を探る試みが紹介された。【山成孝治】

### 社会とつながり認められ

話。さんの「産業型福祉」の

地域で実際に活動してない徳島県上勝町で「葉」。「葉」はビジネスとある担当者の2件の報告。っばビジネス」を展開すは、料理に彩りを加えるが印象深かった。一つは、第三セクターの代表取「つまもの」を販売するは、四国で最も人口が少。締役を務める横石知二こと。86年から、町内の

山の柿や南天、ツバキの葉などを採取、各方面からのニーズに応える形で出荷し、年商3億円を超えるビジネスに成長している。出荷される「元気な福祉」だ。担当しているのは、町内と話す。

### 尊重し合い豊かな交流に

次は、重度重複障害者の「家朋」（横浜市栄区）が通う社会福祉法人訪問の施設長、生田目昭彦さ

に住むお年寄り。月に100万円以上の収益をあげる人もいるという。

光ファイバーでつながったコンピューターネットワークを活用し、注文に

もすばやく、細やかな対応をしている。横石さんは「医療や介護はもちろ

ん必要だが、それ以上に大事なのは、一人一人に

出番がある「産業福祉」、社会とつながり、認められる「元気な福祉」だ。

んの実践例。

生田目さんが福祉の世界に入った30年以上前、

「重度の障害がある子どもたちが15歳、18歳で学

校を卒業した後、居場所がなかった」。そのころ

は、自宅で肉親による介護を受けるか、施設に完

全に入所するしかなかったという。しかし、生田目さんらは母親たちと資

金を集め、8年に通所施設を設立。グループホームなど施設を拡充し、ジ

ャム作りやアルミ缶リサイクルなどの作業を進めている。

生田目さんは「重い障害の人がしっかりした活動を続けている。訪ねて

くる人たちとの関係は互いを尊重し合うもの」とあるべき姿を紹介した。

フォーラム運営の中心になった鈴木七美・国立

民族学博物館教授（文化人類学）は「どんな状態で、どこにいても、困

りこまらず、広く交流できる福祉のあり方を考える

ことが大切だ。また、専門職とされる人たちが

の閉じた場ではなく、広い連携につながる必要

ならぬ」と持論を述べた。福祉を一方的な「施す」として押し込めることを拒み、重層的で豊かな交流としてとらえる視

点が欠かせないことが改めて指摘された。

『毎日新聞』（大阪本社）  
2009年3月13日（金）夕刊

# ケアを双方向で考える

京都で28日と来月1日

国際研究フォーラム「福祉」  
 シンポジウムと福に心地ななる職を重視  
 社(ウェルビーイング)することが不可欠だと  
 の人類学」が28日、3  
 月1日の両日、京都市  
 北区等持院北町、女命  
 館大学交差キャンパス  
 において開催される。多  
 方面からの議論を企  
 む。国立民族学博物館  
 と立命館大学学生研究  
 院センターなどが主  
 催、毎日新聞社などが  
 後援する。

少子高齢化が進み、  
 シビリティセンターの  
 ケアや介護に関心が集  
 められている同大学ア  
 クセ

野真理子教授(文化人  
 類学)や民博の鈴木七  
 美教授(同)ら大学や  
 博物館の研究書などで  
 なり、実際に地域で活  
 動を展開する人たちが  
 加わるのが特徴。高齢  
 者が雨天や雪の寒など  
 を集め、全国の料理店  
 などに出荷して利益を  
 上げる「葉っぱはビネ  
 ス」で注目集める会  
 社「いそいで」(徳島  
 県上勝町)副社長の橋  
 本とまた地域で暮らす  
 心身障害がある人たち  
 の通所施設を86年につ  
 くり、障害者が家族と  
 とともに地域で暮らすこ  
 とを可能にした横浜市

の社会福祉法人・訪問  
 の家「朋」施設長の生  
 田昌昭さんらが参加  
 する。  
 聴講無料。事前登録  
 が必要。申し込み、問  
 い合わせは事務局の岡  
 田昌昭さん(06  
 ・68878・8823  
 5)。  
 【山城孝治】

『毎日新聞』(大阪本社)  
 2009年2月6日(金)夕刊

『中国新聞』

2009年2月17日(火)朝刊

▽国際研究フォーラム「ライフデザインと福祉の人類学―開かれたケア・交流空間の創出―」28日、3月1日に京都市北区の立命館大・衣笠キャンパスである。国立民族学博物館と同大生存学研究所センターの主催。広島大などが後援する。

28日は午前10時開会。広島大アクセンシビリティセンター長の佐野(藤田)真理子・同大大学院教授がセンターの活動を紹介。人に優しい社会の実現や多文化社会における高齢者のクオリティ・オブ・ライフなどをめぐって発表がある。1日は広島市立阿戸中の村田吉弘校長の司会で「オルタナティブ教育とライフデザイン」を議論する。

定員130人。参加無料だが、事前登録が必要。事務局 ☎06(6887880235)。

### ライフデザインと福祉のフォーラム

京都・立命館大で28、1日

国際研究フォーラム「ライフデザインと福祉の人類学開かれたケア・交流空間の創出」が28日と3月1日、京都市北区等持院北町の立命館大・衣笠キャンパス創思館カンファレンスルームで開かれる。国立民族学博物館と立命館大主催。

28日、セッションIのテーマは「一人にやさしい社会の創生に向けて―大学からの情報発信と人材育成」▽同II「多文化社会における高齢者のク

『毎日新聞』(大阪本社)

2009年2月14日(土)夕刊

オリティ・オブ・ライフ」▽同III「高齢者のウェルビーイングから地域コミュニティのデザインへ」。

3月1日はセッションIV「技術と障害者から始まるコミュニティ・デザイン」▽同V「オルタナティブ教育とライフデザイン」▽セッションVI「全体討論」。

両日とも午前10時開始。定員130人(参加費無料。事前登録が必要)。申し込み・問い合わせは大阪府吹田市の国立民族学博物館国際研究フォーラム事務局研究協力課国際協力係(☎06・6887880235)。